生活科

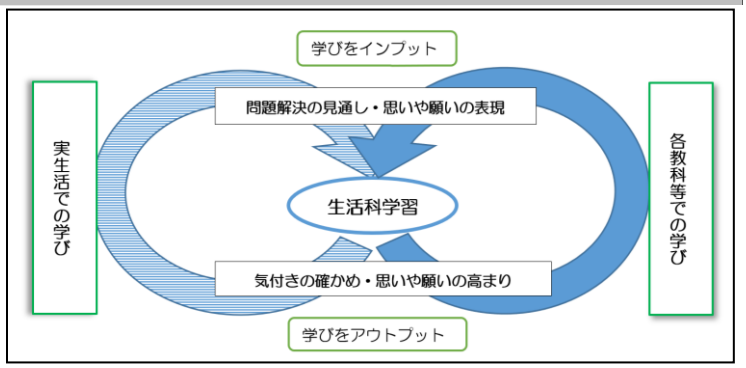
子どもが「学びをつなぐ」生活科学習

間瀬田　恵美

昨年度までの研究の概要

昨年度は、「『学びをつなぐ』ための学習指導の在り方」を究明するために、「各教科等及び実生活での学びを生活科に生かす単元構成の工夫」と「生活科での学びを各教科等及び実生活に生かす単元構成の工夫」について研究を進めてきた。

生活科での学びと各教科等や実生活での学びを双方向につないだことで、子どもの「できること」から学習を始めることができ、自信をもたせながら学習を進めたり、生活科が各教科等をつないで効果的に学習を進めたりすることができた。



【生活科と各教科等・実生活での学びのつながり】

その一方、合科的・関連的な指導に重きを置くあまり、子どもの思いや願いの実現を図ることが疎かになってしまい、友達と伝え合う必然性を感じられず、気付きの質を高めることも十分にできなかった。また、１単位時間内での手立てのみで各教科等及び実生活につなげる意欲をもたせたり、変容を見取ったりすることが難しく、課題が残った。

そこで、本年度は、子ども主体で活動を進めるための授業展開の在り方を探るとともに、学びの足跡が分かる学習プリント等の在り方について研究を行うこととした。

生活科研究部における「学びをつなぐ」姿

○　これまでに学んだことを生かして思いや願いを実現しようとしたり、授業での学びを各教科等で生かしたりする姿
○　自分と友達の気付きを関連付けたり気付いたことを伝え合ったりすることで、新しい気付きを生み出す姿
○　実生活での学びと本時の学びを双方向に生かし、よりよく成長しようとする姿

研究内容

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
⑴　子ども主体で活動を進めるための授業展開の在り方
⑵　学びの足跡が分かる学習プリント等の在り方

研究内容の基本的な考え方

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

生活科は、子どもの思いや願いの実現を図ることができる教科である。子どもは、対象に出合い、かかわったり働きかけたりする行為を繰り返し、新たな気付きを得る。そのことで、更なる思いや願いをもつ。新たな思いや願いの実現にわくわくする子どもの姿を「冒険をする勇者」に例えると、これまでの学びや各教科等での学びは「夢の実現を叶えるためのアイテム」であり、共に学ぶ友達は「冒険を共にする仲間」である。さらに、冒険のなかで得た新たなアイテムを使って、更なる冒険に突き進んでいく。つまり、生活科学習は「勇者の冒険」と同じであるといえる。

また、令和３年３月「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」に示されている「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、生活科学習のめざす学びの姿と重なる部分が多く、生活科学習が果たす役割は大きいと考える。

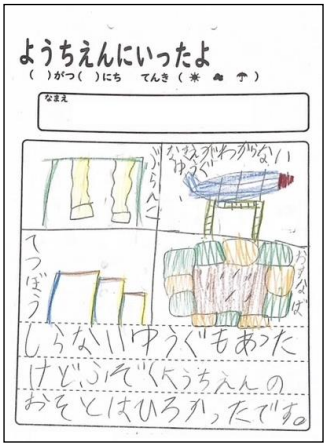
これらのことから、今年度は、子どもの思いや願いから学びを出発させ、子どもの気付きの質を高めるために子ども主体で活動を進めさせたい。その過程で、必要になる情報を取捨選択することができるような手立てを講じることで、合科的・関連的な指導につながるようにしていきたい。そのため、下記の２点について究明する。

⑴　子ども主体で活動を進めるための授業展開の在り方

教師主導で学習を進める「なかよし学習」と、子ども主体で学習を進める「にこにこ学習」の２種類の学習形態を設定する。「にこにこ学習」の際に子どもが主体的に活動を進めることができるように「なかよし学習」の在り方や発達の段階にあった「にこにこ学習」の進め方について究明したい。「にこにこ学習」で個人思考の時間を十分に確保し、周りの友達や教師に伝えたり尋ねたりしたいという思いをもたせることで、必然性のある伝え合いができるようにしたい。そして、伝え合うなかで、自分と友達との気付きを比べさせたり、自覚していなかったことに気付かせたりすることで、気付きの質が高まるようにしたい。

⑵　学びの足跡が分かる学習プリント等の在り方

昨年度までは、１単位時間に学習したことを「絵と文」で表現する学習プリント（以後、「一般型」）を用いることがほとんどであったが、今年度は、単元全体を通じて１枚の学習プリントにふりかえり等を蓄積する学習プリント（以後、「ポートフォリオ型」）も併用する。また、授業展開によっては数種類の「一般型」から子どもが選択して学習を進めたり、タブレット型端末やノートも必要に応じて使用したりする。このように、子どもが学習中に活用したり、必要に応じて学びの足跡をふりかえったりできるような学習プリント等の在り方について究明することで、子どもが自分の変容を実感し、成長した自分に気付くことができるようにしたい。



【「一般型」学習プリントの例】

研究の実際

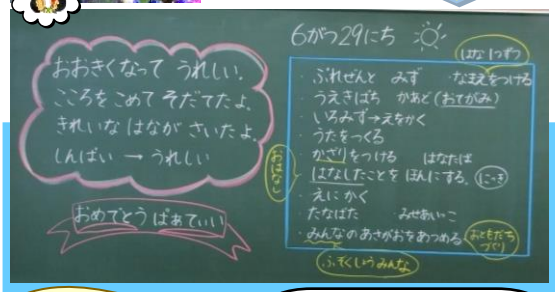
1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　子ども主体で活動を進めるための授業展開の在り方

過年度の研究から、入学直後の１年生でも幼児期の学びや実生活での学びを生かして、思いや願いの実現を図ろうとすることが分かった。そのため、意図的に友達とかかわる場を設定し、友達と学びをつなぐことの価値に気付かせることで、自ら学びをつなぐ姿が表れるようにした。

第１学年「ぐんぐんそだて」における授業実践

アサガオの花が咲いたよ！
おめでとうパーティーがしたいな！



授業形態の表示

なかよし学習　にこにこ学習

「やってみたいことがたくさんあるから２回やってみよう！」

第１回目：「なかよし学習」で「七タイベント」

第２回目：「にこにこ学習」で、「自分がやってみたいこと」

開花後の話合いで、開花を祝うイベント（「おめでとうパーティー」）を実施することとなった。

イベント第１回目は、実施するために必要なことを教師主導で話し合い、準備を進めた。その際、第１回目での経験を生かして、第２回目を「にこにこ学習」中心で行うことができるようにするために、「計画を立てる手順を示す」「準備の視点を示す」ようにした。また、「友達と学びをつなぐ姿」や「これまでの学びを生かす姿」が現れた際に、全体で共有し、価値付けるようにした。そのことで、自分だけでは分からなくても、これまでに学んだことを使ったり友達と話し合ったりすれば解決できることに気付かせることができた。

第１回目

提灯を点灯させたいけど、折り紙だから無理だよね。

手伝うよ。
どうしたらよいかなあ。
あっ！思い付いた！

どうするのかな？

中に銀色の折り紙を入れてみたらどうかな。

光ったよ！ありがとう！

友達の役に立てるのは嬉しいな。

第２回目

「七タイベント」の夜の動画を視聴したり学習プリントを見たりさせたことで、学習のゴールを意識したり、活動の見通しをもったりすることができた。

色水をつくりたいけど、花はちぎりたくないなあ。どうしよう。

絵の具で色を着けたらどうかな。

イベントの内容を考える際に、個人思考の時間を確保することで、「伝えたい」「教えてほしい」という思いや願いをもたせることができた。

その後、考えたことや困っていることをグループで伝え合わせることで、イベント実施の計画を具体的に立てることができた。

歌をつくりたいけれど、意見が分かれて困っています。

グループで考えたことを伝え合い、グループ内で解決できないことを全体に問い掛けさせることで、困り感を共有し、解決を図ろうとすることができた。

１番と２番に分けたらよいと思います。

【自分の成長や友達のよさへの気付き】

「にこにこ学習」を行い、周りの友達や教師に伝えたり尋ねたりさせたことで、自分が考えたことを実現したいという思いや願いをもったり、友達と活動するよさを実感したり、できなかったことができるようになった自分に気付いたりすることができた。

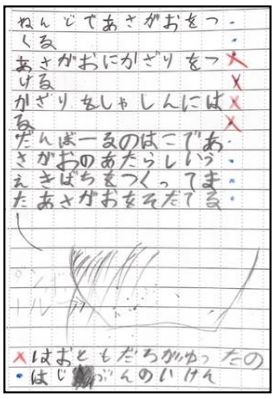
思いや願いを伝え合うことができるような表現力の育成を図ったり、学習形態の役割を整理し、授業展開の在り方や子ども主体で進めるための教師の手立てについて究明したりする必要がある。

⑵　学びの足跡が分かる学習プリント等の在り方

気付きの質を高めるためには、「試行錯誤や繰り返す活動の設定」「伝え合い交流する場の工夫」「振り返り表現する機会の設定」「児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする学習指導」を行う必要がある。そこで、学びの足跡を残す方法を４種類に増やした。そして、本時の目標や活動内容に合わせて、選択するようにした。

○　視点があるものとないものを両面に印刷したことで、子どもが表現しやすい方を選択することができた。
●　文字や絵をかくことに時間がかかり、ふりかえりの時間を確保できないことがあった。

【「一般型」学習プリント】

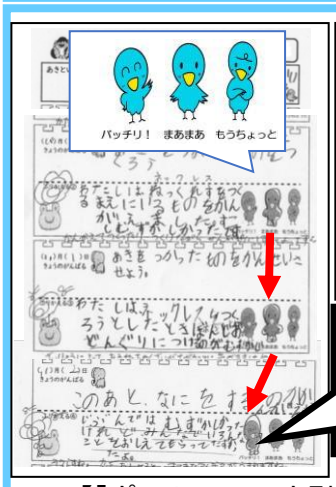


○　必要だと判断したときに自由に記述でき、考えを友達に説明したり意見を整理したりするために活用する姿も見られた。
●　何を書けばよいのか分からず活用できない子どももいた。

【ノート】

○　写真を拡大することができ、細部まで観察することができた。
●　操作をすること自体に時間がかかった。

【タブレット型端末】



○　ふりかえりを蓄積することで、成長や活動の変化に気付くことができた。
○　教師がコメントを記入することが励みとなったり、ふりかえりや活動の意欲付けとなったりした。

自分では難しかったけれど、みんなにいろんなことを教えてもらって、助かったよ。
（→は自己評価の変容）

【「ポートフォリオ型」学習プリント】

目標や学習活動に合わせて選択させることで「掲示するための学習プリント」から「思いや願いを表現するための学習プリント」へと変化させることができた。本時のねらいに迫るために必要な事柄のみをかかせるようにしたことで子どもの負担が軽減され、思いや願いを詳しくかくことができるようになった。

「ポートフォリオ型」にふりかえりを蓄積させたことから、手にするたびに以前の自分と比べる機会ができ、対象の変化や自分の成長、友達とかかわることのよさに気付かせることができた。また、教師の反応がすぐに返ってくることで、思いや願いを言葉で表すことの楽しさを感じ、記入することを楽しみにする子どもも現れた。

ただ、学習プリントを準備する段階で、使用する目的や子どもの実態を踏まえて授業計画を立てていなければ、ねらいから逸れてしまう。そのため、子どもの思いや願いだけではなく、子どもの姿を思い描きながら教材研究を行う必要がある。

今年度の研究のまとめ

１　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　子ども主体で活動を進めるための授業展開の在り方

○　子どもの思いや願いの実現に向けて学習を進めたことで、必然性のある伝え合いを行わせることができ、自ら学びをつなぐ姿が見られるようになった。そのなかで、話し合いながら試行錯誤したり互いの意見を比べたりすることで、無自覚だったことに気付かせ、気付きの質を高めることができた。

○　子ども同士のつながりができたことで、友達や教師が「自分を助けてくれる安心できる存在」となり、進んで意見を述べたり、話し合って解決しようとしたりする姿が多く見られるようになった。

●　学習のねらいを達成し、より効果のある学びにするために、２種類の学習形態の在り方を整理する必要がある。

⑵　学びの足跡が分かる学習プリント等の在り方

○　「掲示するためにかかせる」のではなく、学習のねらいに沿って必要な内容を記録させることで、思いや願いを表現したり、成長した自分に気付いたりすることができた。

○　ふりかえりを蓄積させたことで、自分の変容を実感させることができた。

●　記録する方法が煩雑になってしまったため、内容を検討したり、種類をまとめたりして、使いやすいものにしていく必要がある。

参考文献：　自己評価による授業改善　中島雅子　東洋館出版　2019
新訂　一枚ポートフォリオ評価ＯＰＰＡ　堀哲夫　東洋館出版　2019